

ストップ！飲酒運転

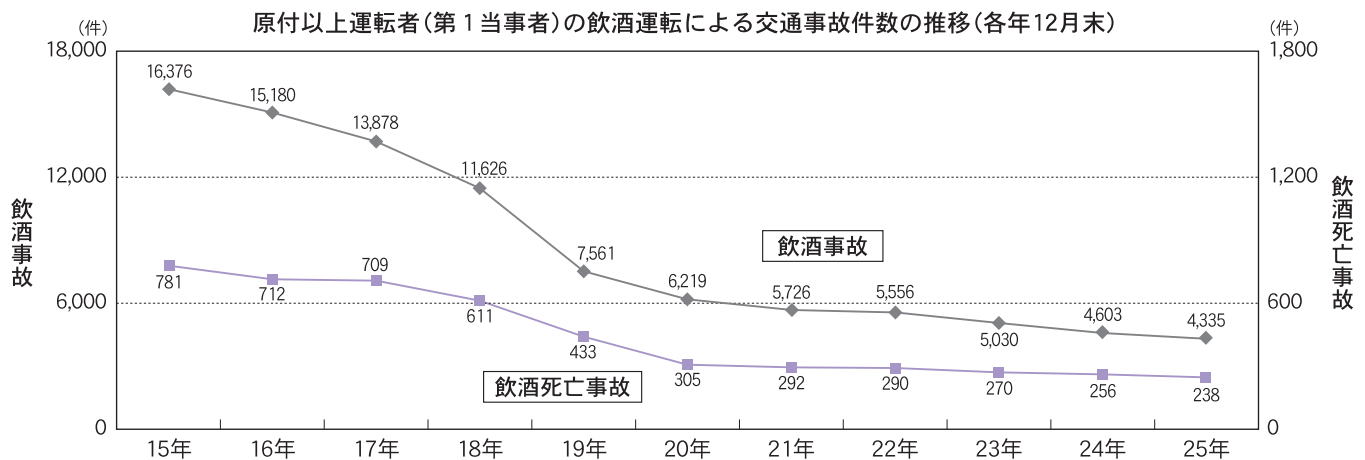
「飲んだら乗るな」徹底を

重大事故に直結する悪質・危険な犯罪であるにもかかわらず、飲酒運転による交通事故がいまだに後を絶ちません。飲酒運転はドライバー本人や同乗者、お酒や自動車などの提供者が厳しく罰せられるだけでなく、その後の人生を大きく狂わせる結果になります。皆さん一人ひとりが「飲んだら乗るな。乗るなら飲むな」を徹底し、飲酒運転を根絶しましょう。



飲酒事故の発生状況は？

飲酒運転による交通事故（いわゆる、飲酒事故）件数は、10年前と比べると刑法・道路交通法の厳罰化や、飲酒運転根絶に対する社会的気運の高まりなどにより、大幅に減少してきていますが、平成20年以後は減少幅が縮小し、下げ止まり傾向にあります。



また、死亡事故率を飲酒有無別に見ると、飲酒運転の死亡事故率は飲酒なしの約9.1倍であり、酒酔い運転にいたっては約19.5倍と極めて高く、飲酒運転による交通事故が死亡事故につながる危険性の高いことがわかります。

原付以上運転者（第1当事者）の飲酒有無別死亡事故率

飲酒別	年	平成25年
飲酒あり	酒酔い	11.79
	酒気帯び(0.25以上)	5.97
	酒気帯び(0.25未満)	2.20
	基準以下	2.54
	検知不能	16.37
小計		5.49
飲酒なし		0.61
調査不能		8.31
合計		0.65
酒酔い／飲酒なし		19.5
飲酒あり／飲酒なし		9.1

注 死亡事故率＝死亡事故件数÷交通事故件数×100

(資料 警察庁『飲酒運転による交通事故関連統計』)

